

8 月下旬における水稲の病害虫（いもち病，斑点米カメムシ類）の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査（69 地点）は 8 月 17～23 日に実施

○ いもち病（穂いもち）

・今回の調査では，1 地点で穂いもちの発生が確認されましたが，軽度の枝梗いもちでした。

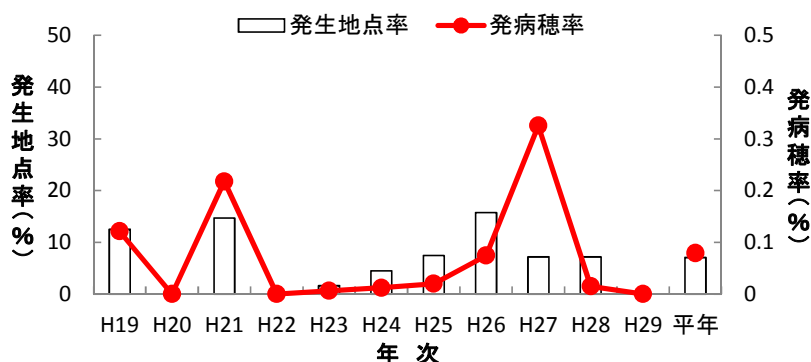


図1 8月下旬における穂いもちの発生状況

調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

発病穂:首いもち(穂首部が罹病し白穂になったもの)又は枝梗いもち(枝梗が罹病し1穂の3分の1以上の籾が枯死したもの)がある穂。なお，籾の枯死が3分の1未満の軽度な枝梗いもちには発病穂率にカウントしていない。

・出穂後2～3週間までの感染は穂いもちによる減収につながります。出穂が遅れているほ場，出穂が長引いているほ場では，発生状況に注意してください。

○ 斑点米カメムシ類

・巡回調査の結果，水田内におけるアカスジカスミカメ成虫のすくいとり虫数は 3.0 頭で平年(2.6 頭)並でしたが，発生地点率は 48.4%で平年(31.1%)より高い状況でした(図2)。

・カスミカメムシ類幼虫のすくいとり虫数は 5.6 頭で平年(1.8 頭)より多く，発生地点率は 32.3%で平年(16.7%)より高い状況でした(図3)。7月下旬にイヌホタルイが残草しているほ場では，カスミカメムシ類幼虫の発生量が，残草していないほ場に比べ多くみられました(図4)。斑点米カメムシ類の発生推移では，出穂期以降に発生量が増加しました(図5)。

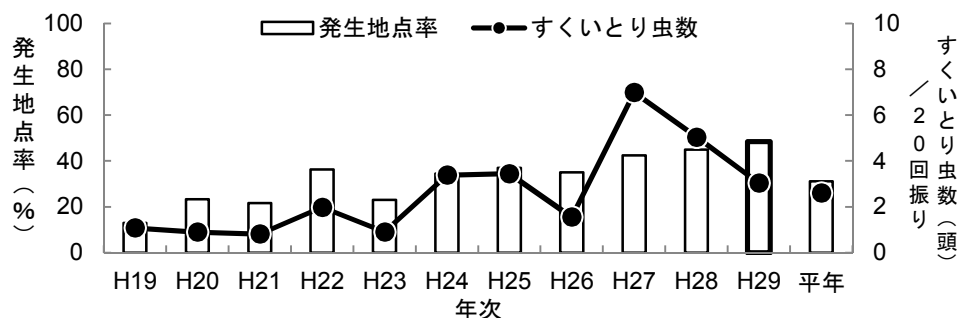


図2 8月下旬における水田内のアカスジカスミカメ成虫のすくいとり虫数と発生地点率の推移

※調査方法：20 回すくいとり調査。平年値：10 か年平均値。

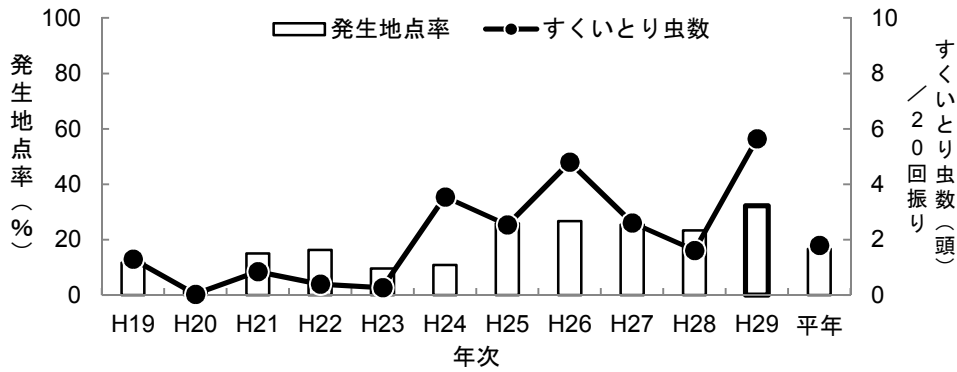


図3 8月下旬における水田内のカスミカメムシ類幼虫のすくいとり虫数と発生地点率の推移

※調査方法：20回すくいとり調査。平年値：10か年平均値。

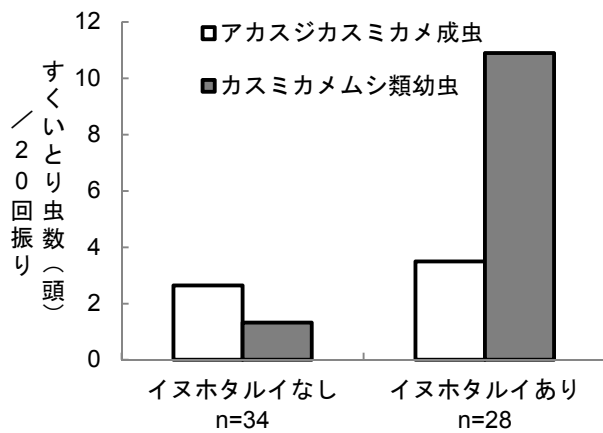


図4 水田内のイヌホタルイの有無(7月下旬)とすくいとり虫数(8月下旬)

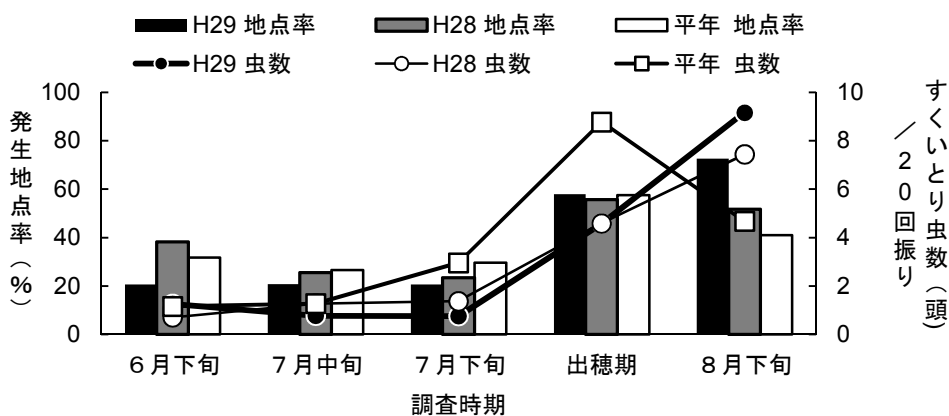


図5 水田内における斑点米カメムシ類の発生地点率とすくいとり虫数の推移

※調査方法：20回すくいとり調査。平年値：10か年平均値。虫数は成虫+幼虫。

・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。アカスジカスミカメの第2世代成虫の発生は8月後半と推定されます。特に、雑草が残っているほ場や出穂が遅れているほ場では、適切に防除してください。